

最新の歯科技工技術に関する講習会Ⅳ

都技 生涯 研修

[重要なお知らせ]

1. コロナウイルス感染拡大防止目的によりZOOM（ズーム）システムを用いたオンラインによるセミナー開催となります（*オンライン環境がない方は会場参加可）。
2. **本研修会は東京都保健局よりの委託事業となっております。**

つきましては受講対象者は以下の方に限ります。

- ① 一般社団法人東京都歯科技工士会（都技）会員
- ② 学生並びに都技メイト会員（技工学校卒後2年度内の方）
- ③ 東京都内在住在勤歯科技工士

[申込方法]

- ① 参加希望者は下記QRコード、もしくは東京都歯科技工士会のホームページからお申し込みください。

ホームページURL: <https://www.to-ginet.com>

- ② 上記オンライン申込をされますと登録したメールアドレスに自動返信されますのでご確認ください。



申込用QR

[LINE公式アカウント登録のお願い]

緊急連絡、変更&追加報告をスムーズにさせるために都技では試験的にLINE公式アカウントを設けましたのでLINEを使用されている方は、是非とも登録をお願い致します。



都技LINE公式
アカウントQR

[お問い合わせ]

一般社団法人 東京都歯科技工士会

〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-2-10 ヴィップ大塚香川ビル4F
e-mail: togi-info@to-ginet.com

令和3年度

最新の歯科技工技術に関する講習会Ⅳ

オンラインセミナー

インプラントブリッジ プロシージャ

“失敗しないプランニングとワークフローを考える”

志田 和浩 先生

(株式会社PREF)



Tokyo master course Science Lecture

[開催日時]

令和3年 11月7日 日

受付 12:40 開始 13:00 → 終了 17:00

オンラインセミナー

定員 80名

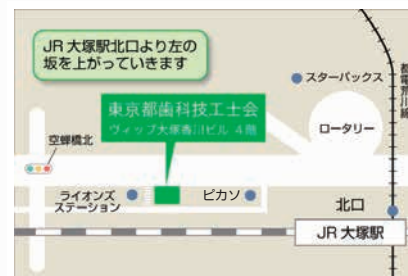
参加費 無料

会場受講

定員 10名

参加費 無料

場所 東京都歯科技工士会 研修室
東京都豊島区北大塚2-2-10 ヴィップ大塚香川ビル4F



一般社団法人 東京都歯科技工士会

”失敗しないブリッジとワークフローを考える“
 インプラントブリッジプロシージャー

インプラント上部構造作製において審美的にも機能的にも理想とするフォームを作り上げる上で重要なのはインプラントポジションであると考えられる。理想とかけ離れた埋入や、既存骨を中心としたインプラント埋入が行われた後に『補綴でなんとかしてください!』という事案がいくかに多いか?埋入ポジションにより、強度、咬合、清掃性のなどの問題などが常に左右され、複雑な構造設計を余儀無くされる場面に直面している現状がある。

昨今はCTが普及したことにより、予知性の高い正確なインプラント埋入プランニングが、3Dシミュレーションソフトを使用することにより、事前に計画することが可能になってきている。

今回は、審美領域からボーンアンカーブリッジまで、私が考えるインプラント補綴を、診査診断からラジオグラフィックガイド、サージカルテンプレート、イミディエートローディング、イミディエートファンクションの与え方を踏まえ、我々のチームで考える最終補綴物装着までのアプローチと術式に関して、デジタルデンティストリーとトップダウンリトメントを中心に考えて行く。

■講師略歴

志田 和浩

[しだ かずひろ]



株式会社 PREF

略歴

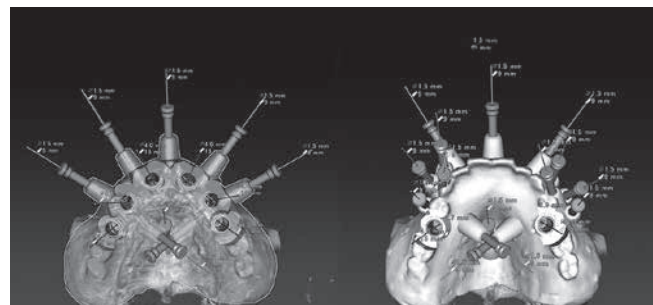
- 1983年 東北歯科技工専門学校 卒業
- 1985年 国際デンタルアカデミーラボテックスクール 卒業
- 1986年 河津インプラント研究所 入社
- 1993年 PREF 開業
- 2012年 株式会社PREF 設立
- 2016年 JDETAILS 設立

所属

- 日本臨床歯科学会 (東京 SJCD)
- デンタルコンセプト21 理事
- インプラント上部構造研究会
- GIC implant スタディーグループ 理事
- ドーンソニアカデミージャパン
- デンタルアカデミー東京講師
- ノーベルバイオケアインストラクター

機能と審美が大きく破壊された多数歯欠損や無歯顎症例に対する全顎的症例において、目標を達成するためには術前に治療計画と治療ゴールを具現化する必要がある。

現在、その手法はデジタルに変わりつつあり、患者にも理解しやすいものとなっている。また、最終補綴物の形態やマテリアルの違いに応じて外科治療インプラント埋入ポジションの計画が異なるため、外科治療計画に先行して補綴治療計画を立案する必要がある。



私が考えるインプラント上部構造の条件は、①審美生に優れていること ②清掃性に優れていること ③予知性が高く、壊れにくいこと ④リペア、リカバリーが容易なリトリバビリティを有すること ⑤患者が快適に過ごせること、の5点である。

現状この条件を満たすインプラント上部構造デザインはスクリー固定式ジルコニア上部構造であると考えている。しかしジルコニアオールセラミック上部構造を選択するにあたりスクリー固定式フルジ



ルコニア上部構造のインプラント埋入ポジションは、よりシビアになりデジタルによる術前のプランニングは必須のものとなっている。今回は目標を達成するために必要な、診査診断から外科治療、補綴治療までのワークフローとチームアプ



ローチ
 に関して示したい。